地区名：小山地区
実施主体：小山をよくする会

1　基本データ

〇地区人口　　1,952 人（H31.4.1 現在）
〇世帯数　　671 世帯
〇行政区数　　15 行政区
〇面積　　約 16.8 平方キロメートル
〇地区の沿革

小山地区は、大野市の南西部、市街地に隣接し、緑豊かで自然にあふれた農村地域である。面積は、東西およそ 2.8 キロメートル、南北およそ 6 キロメートルの約 8 平方キロメートル。地区内には、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、農村地帯として発展をしてきた歴史がある。

【赤枠で囲われたところが小山地区】

「歴史と文化を活用した地域づくり」の活動は地区内全戸を会員とする「小山をよくする会」が主体となり実施している。

「小山をよくする会」は、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指し、地区内から選出された会長 1 人、副会長 2 人、各集落から選出された推進委員 45 人により、話し合いながら活動している。事務局は小山公民館にある。

2　現状と課題

小山地区は、農村地帯として発展し、現在でも農業が盛んな地域である。「愛汗喜働」という汗を流して働く喜びを表した言葉や、米づくりなどの農作業により地域に受け継がれてきた「結の精神」が残っている。しかし、農業の機械化や農業従事者の減少など様々な影響により協力して農作業を行う機会もへり、地域のつながりが薄れてきている状況がある。

地区内の高齢化率は 32.09%（令和元年 7 月）であり、大野市全体の高齢化率 35.59%よりは低いが、全国の高齢化率である 28.1%（令和元年度版高齢社会白書より）に比べると高い状態である。また、高齢化の進行とともに少子化も進んでおり、地区内の集落では、子どものいない集落も出てきており、集落の行事などができない状況は、集落のつながりの希薄化に少しずつ影響を及ぼしている。

このような状況のなか、小山をよくする会では、「地域の歴史や文化を掘り起こし、地区住民に知ってもらうことによる、地域を誇りに思う住民意識の醸成」を目的とした事業を中心に、地域づくりの基礎となる地区住民同士のつながりを強化する事業、集落での困りごとを住民同士が協力し解決することを支援する事業に取り組んできた。

中心となる事業は、平成 18 年頃に公民館で開催した歴史講座をきっかけに誕生した「小山荘歴史の会」と連携して開催してきた。特に舌城、茶臼山城跡などの山城跡の調査や遊歩道の整備は、小山荘歴史の会と地元である上舌区の熱意と努力が無くては、実現させることはできなかった。しかし、小山荘歴史の会は、会員の高齢化により令和元年中に活動を中止し、年末には解散した。

小山荘歴史の会の解散の影響により、令和元年度の交付金事業で予定していた遊歩道の整備は実施できなかった。それだけではなく、これまで取り組んできた事業の今後の在り方を検討する必要が生まれた。

小山地区の地域づくりの課題及び取り組みを

続ける上での課題を整理すると、

・地区内、集落内の関わりが希薄になり、地域づくりの基本となる「結の精神（こころ）」が薄れてきていること。

・少子高齢化や人口減少などにより、地区や集落でこれまで行ってきた行事を続けることができず、益々、人と人とのつながりが無くなっていること。

・地域づくりの活動に取り組む人や団体がいないと、地域は衰退するばかりなので、地域住民の思いを受け止め支援することで、団体やグループの成立を支援し、活動を広げていく必要があること。

・地域づくりに取り組む人や団体の活動が長く続くように、一つの団体やグループに活動を依存するのではなく、地域住民全体の協力により活動できる体制を模索していく必要があること。

　このような課題を、地区住民が地区の行事や集落で交流し、また、自らが住む小山地区のことを知り、好きになってもらうことで、解決の一助になるよう、これからも取り組んでいく。

3　事業の内容

①歴史と文化の里づくり事業

**　歴史と文化の里づくり事業は小山地区の歴史を掘り起こし、住民に地区の歴史を身近に感じてもらうことと地区住民同士の交流の場を作ることを目的として実施している。**

小山夏まつり・小山まつり事業

　小山地区で毎年行われている小山夏まつりと小山まつりについて、地域づくりの核となる地域住民同士の交流の場として実施した。

　小山夏まつりは、いろいろな模擬店、ゲーム大会、抽選会、盆踊り、花火大会など楽しい行事を開催した。

　交付金を活用し、夏まつりの司会をプロに依頼したことで、イベントは大変盛り上がった。

　また、会場につるす提灯を紙製からプラスチックに交換した。

【夏まつり】

　小山まつりは、昨年度に引き続き、小山小学校を会場に小山地区敬老会と小山小学校の地域との交流イベントと合同で開催した。体育館にて三味線や大正琴、歌やマジックショーなどのステージイベントや、地区内小学生の作品展示、地区で活動しているサークルなどの作品展示を行った。また、教室を使ってバザーや子どもたちの模擬店、学校入り口では地域の団体の蕎麦やタピオカのお店なども出店し、賑わった。交付金を活用し小山まつり会場前の模擬店で使用するトレイを購入した。

【小山まつり】

小山夏まつり、小山まつりはどちらも小山地区の最大級のイベントであり、両方とも約300人の地区住民が参加した。

令和元年度舌城跡・茶臼山城跡整備

令和元年度は、6月13日に小山をよくする会と小山荘歴史の会で舌城跡遊歩道の草刈りを実施、歴史の会会員を中心に12人が参加した。その後、歴史の会の活動休止・解散により、秋に予定していた、危険な樹木の伐採をすることはできなかった。

【舌城跡遊歩道草刈り】

②地域コミュニティ支援事業

令和元年度は、次のとおり実施した。要望される事業費総額が交付金予定額を上回るため、区長会や推進委員会で配分額を決定している。

〈令和元年度実施事業〉

雪崩防護壁前集落道舗装（下黒谷）
飯降公民館駐車場整備（飯降）
浴衣購入（南春日野）
小山地区地域づくり講演会

下黒谷区雪崩防護前集落道路舗装

下黒谷区にある平成8年に設置された雪崩防護壁には集落の平穏無事を祈願した観音像レリーフが飾られている。

定期的にテレビ番組で紹介されることもあり、市内外からここを訪れる人も多くなっている。

そこで7月14日から8月4日にかけて、集落の住民延べ34人が参加し、自らの手で整地、型枠設置、舗装、型枠外しなどの作業を実施した。

飯降区集会場舗装

昨年に引き続き、飯降公民館の敷地の一部を舗装した。アスファルト舗装は素人では困難ではあるが、住民5人が手伝いで参加した。

南春日野区浴衣購入

南春日野区では、そろいの浴衣を購入し、地区の夏まつりに参加した。地区から 26 人がそろいの浴衣で踊ることでまつりを盛り上げた。お盆の時期に開催されるおおの城まつりにも参加の予定をしていたが、台風のため中止になり、参加することはできなかった。

小山地区地域づくり講演会

令和元年度は 8 月 27 日（火）に京都大学防災研究所の竹之内健介氏を講師に、「防災スイッチ」について講演会を開催した。当日は 26 人が参加し、講演だけでなく、ワークショップの中で地区の防災スイッチになる場所などを話し合った。

4　事業の成果

①歴史と文化の里づくり事業

・小山夏まつりと小山まつりを実施することで、地域づくりの基礎となる地区住民同士の交流を強固なものにすることができた。

・小山夏まつり、小山まつりともに、準備・運営を行う小山をよくする会推進委員が積極的な協力があり、運営側の立場に多くの推進委員に関わってもらうことができた。

・小山夏まつりにおいて、司会を委託し、提灯プラスチック製のものにすることで、運営する推進委員の準備や運営にかかる労力を軽減することができ、推進委員にもまつりを楽しんでもらうことができた。

・小山まつりにおいて、小山小学校と協力し、また敬老会と同時開催することで、多くの住民に参加をしてもらえた。

・舌城跡の遊歩道の草刈りを行い、小山小学校の児童が総合学習の時間などに舌城・茶臼山城の歴史を調べることを手助けできた。

②地域コミュニティ支援事業

・地域の課題を話し合い、共同作業を実施することで、共助の精神“結の精神”が継承されるきっかけとなった。

・南春日野区は、揃えた浴衣で小山夏まつりに参加し、盆踊りを踊ってくれた。まつりを盛り上げるのに一役かってくれた。

・「防災スイッチ」の講演をきっかけに、集落で危険な場所やスイッチとなる現象について話し合ってもらうきっかけを作ることができた。話し合いをすることで、集落の繋がりが強固になると期待している。

5　今後の展望

小山荘歴史の会の解散により、平成 24 年度から続けている舌城跡・茶臼山城跡の整備・管理について、その継続が危うくなってきている。団体の役員のみで実施する形から、地区内で広く協力者を募り、負担を増やさない方向で継続できる方法を模索していく。

また、これまで行ってきた取り組みなどで、地域で活動したい団体が生まれてきた。新たな地域づくりの活動を支援することで、小山地区の繋がりを強めていく。

小山夏まつりと小山まつりは、その性格が異なるイベントのため、両方を引き続き実施していく。

特に、小山まつりは、小山小学校を会場として開催しているが、地域づくりや世代間交流の象徴とも言える事業になっている。学校との協力は今後も継続していく。

地域コミュニティ支援事業については、集落で話し合い、協力ができることが地域づくりの基礎となるためのきっかけになると考えている。今後も継続し、小山地区の良いところである「結の精神（こころ）」が無くなってしまわないよう、事業を続けていく。

地域づくりの講演会については、今後は防災や福祉が重要なキーワードになると考えている。相乗的な効果を期待し、講演会の内容が地域に波及していくような仕掛けを検討していく。